

当院では、G-CAPとL-CAPの治療をご提供いたします。

G-CAP（顆粒球吸着療法）

体外循環により顆粒球吸着器（アダカラム）に通すことで、炎症の原因となる血液中の顆粒球を選択的に吸着除去および機能を変化させる血液浄化療法です。

○実施方法

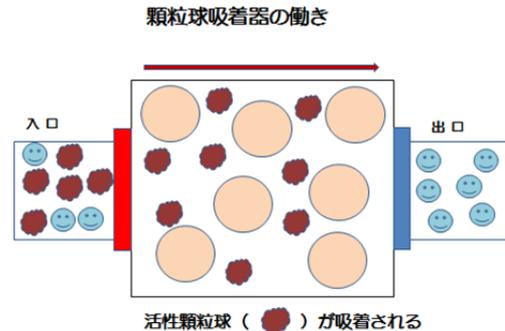
治療時間：約1時間（血液置換量1800mL、Qb30ml/min）

治療回数：週1回×連続5週間（1セット）※1回の活動期に対して2セットまで可能です。

○効果及び副作用

下痢や血便、発熱などの症状、また大腸内視鏡的にも炎症の改善がみられます。

副作用は頭痛、吐き気、めまいなどが約3%に認められますが、いずれも一過性で軽度です。



L-CAP（白血球除去療法）

体外循環によりフィルター（セルソーバEX）に通すことで、炎症の原因となる血液中の白血球（顆粒球、単球、リンパ球）、血小板の成分を除去し、サイトカイン等の情報伝達を断ち、炎症を抑えることができる血液浄化療法です。

○実施方法

専用の血液循環装置を使って、白血球除去器（セルソーバ）炎症の原因物質を除去します。

治療時間：約1時間（血液置換量1800mL、Qb30ml/min）

治療回数：週1回×連続5週間（1セット）※1回の活動期に対して2セットまで可能です。

○効果と副作用

血便は約6割、腹痛は約7割、大腸内視鏡所見約5割の改善率が得られるという報告があります。

副作用は頭痛、吐き気、めまいなどが約3%に認められますが、いずれも一過性で軽度です。

潰瘍性大腸炎とは

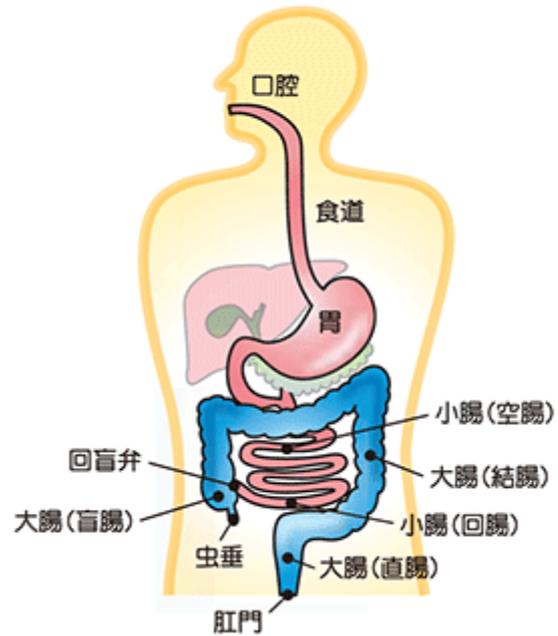
潰瘍性大腸炎とは、何らかの原因により大腸の粘膜に炎症が起こり、びらんや潰瘍ができる病気です。炎症は通常、肛門に近い直腸から始まり、その後、結腸に向かって炎症が広がっていくと考えられています。腸に起こる炎症のために下痢や粘血便、発熱や体重減少などの症状があらわれます。

病状は、寛解期と活動期を繰り返すことが多く、長期化することがあります。

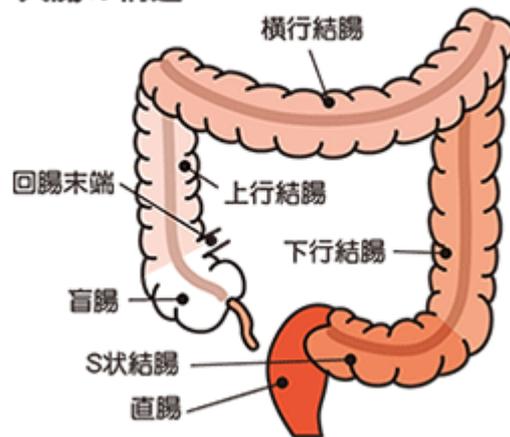
発症の原因

潰瘍性大腸炎は、厚生労働省の特定疾患調査研究班により病気の研究が進められており、原因は分かっていませんが、自己免疫機序など免疫異常がその原因となっているのではないかと考えられています。免疫機能に異常が生じると自分自身の粘膜をも異物とみなし、これを攻撃して傷つけようとし、その結果、粘膜に炎症が起こります。異物を排除するために異常にはたらく免疫機能が活発化すると、白血球の過剰反応により、持続する炎症が起こります。この免疫説も決定的ではなく炎症が起こるしくみとしては有力な説ですが、なぜ免疫機能の異常が起こるのか潰瘍性大腸炎の発症のメカニズムは、まだ明確には分かっていません。

消化器(全体図)



大腸の構造



潰瘍性大腸炎の発症のメカニズムは、まだ明確には分かっていません。